令和６年度

パピーナ南荻窪保育園　すくわくプログラム

テーマ：かたち・かず・ことば・巧緻性

活動　　巧緻性

お弁当を作ってみる

活動スケジュール

３歳児クラス

日にち	令和6年10月11日
時　間	30　分
参加人数	10　人

環境をデザインする

●準備した物　フェルト、おりがみ、花紙、輪ゴム
お弁当箱

探究活動を実践する

●活動内容

お弁当作りのごっこ遊びを行う

●子どもたちの様子

黄色のフェルトを見た子供たちは、卵を連想し、形や味を思い出しながら卵焼きを作り、茶色のフェルトは、鶏肉の唐揚げや焼肉をイメージして、折ったり丸めたりと工夫していた。
お花紙と折り紙を触ることで、柔らかさと硬さの違いに気づき、子ども達のイメージはどんどん具体的になり、ブロッコリーやりんごなど、お弁当の中身について積極的に発言する姿も見られた。
子ども達は、五感をフル活用してお弁当作りを楽しんでいた。





振り返りをふまえた気づき

講師より

卵焼きをきれいに丸める作業では、最初は難しさを感じて途中で諦めてしまいそうになる子もいたが、続けるうちに、丸めることの面白さに気づき、楽しみながら進められるようになった。
自分なり考えて完成したお弁当を目にすることで、子供たちは満足感を得ていた。達成感や満足感を味わうことで、自信や意欲を高めることに繋がった。

担任より

飽きてくると同じテーブルの子と遊び始めるなどふざけてしまうことが続いていたので、保育者が子どもの相性をみて席順を決めることにした。座る場所を決めたことで、途中でふざけるなどの姿もほとんどなく、いつもに比べると最後まで集中して取り組める子が多かった。しばらく、席順を決めた形で様子を見ていきたい。すてっぷの取り組みでは、３本の指を使ってゴムを広げることが難しい様子だった。力が入らないようで、「できない」と言う子が多かったが大人が援助することで力の入れ方が分かるようだった。指先を使った遊びは、クラスの中でも継続的に取り入れていきたい。お弁当作りが楽しかったようで「まだやりたい」と意欲的だったので、クラスの活動でも取り入れたい。

令和６年度

パピーナ南荻窪保育園　すくわくプログラム

テーマ：かたち・かず・ことば

活動　　かたち

形を自由につくり、長い短い、大きい小さいの理解を深める

環境をデザインする

●準備した物　　いろいろスティック

探究活動を実践する

●活動内容

長さの違うピースを使ってつないだり、形を作ったりする

活動スケジュール

４歳児クラス

日にち	令和6年10月11日
時　間	30　分
参加人数	10　人

●子どもたちの様子

すぐに作品作りに取り掛かり、花、図形などを作る子や、じっくり考えてから作品作りを始める子もいた。子ども達は、数字、うんち、アクセサリーなど、全く異なる作品を作り上げ、積極的に取り組む様子がみられた。
色別で複数の三角形を作り、それぞれの大きさと長さを意識していた。
部屋の中にある「３」を探し出すゲームでは、子たちたちは競い合うように、隠れた「３」を探していた。







振り返りをふまえた気づき

講師より

友達と同じ色を選んだり、同じ動きのある形を作ったりと、友達との関わりを通して、新しい発想を得ていた。さらに、自分が発見したアイデアを友達に教えたり、それを取り入れたりする姿が見られた。製作が進むにつれて、周りの状況を把握して隣同士で机の上の製作スペースを意識するようになっていった。

担任より

チャイルドすてっぷでは以前したことがある内容だったので、形の違いや長さの違いなどを理解して組み合わせて様々な形を作ることを楽しんで取り組んでいた。また、講師の先生の指示もよく聞いて取り組むことができていたと思う。

令和６年度

パピーナ南荻窪保育園　すくわくプログラム

テーマ：かたち・かず・ことば

活動　かず

数量の理解を深める

活動スケジュール

５歳児クラス

日にち	令和6年10月11日
時　間	45　分
参加人数	10　人

環境をデザインする

●準備した物　　タイル

探究活動を実践する

●活動内容

位置を表現する

●子どもたちの様子

子ども達は、自宅や保育園の階数について積極的に発言し、上下や左右からの順番を数えることで、正確に位置を把握している姿が見られた。「上から2列目の右から２つ目」という具体的な問いにも対応し、楽しく目的の位置を見つけていた。





振り返りをふまえた気づき

講師より

子供たちは「右手に近いほうが右側、左手に近いほうが左側」という説明を通して、自分の体を基準にして、左右を理解していた。言葉による説明だけでなく、具体的な体験やゲームを通して、位置に対する好奇心を育み、子ども達の自発的な発言や行動を促していくようにしたい。

担任より

最後まで話を聞かないと理解が出来ない取り組みだったが、外部講師の話だけで理解を出来る子、また難しくて他児が置いているのを真似してタイルを置いてみる子など様々だった。他児の様子を見てしまう子へも１対１で知らせる事で理解をし行う姿が見られている為、再度しっかりと聞ける雰囲気を作り自信を持って取り組めるような環境を作っていきたい。